

情報活用能力育成のための指導事例【中学校 第2学年 国語】

単元・題材名	●●町を元気に！ プレゼンテーション大会（※●●は町名）	指導時間（本時）	4 / 6
本時の目標	教科・科目	・ 制作したスライド資料を、受け手の立場に立ってよりよく構成することができる。	
	情報教育（3観点8要素）	<p>[実践] ■課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータなどを使って、プレゼンテーションの資料を作る。(A42-3-010) ■必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造 ・ フォントの種類、大きさや色などを考えて表現する。(A41-3-030) 	
活用する主なICT機器等	■コンピュータ ■デジタルテレビ ■ソフトウェア（プレゼンテーション）		
本時の概要	地元を活性化させるための資料を、プレゼンテーションソフトを活用し作成させる。伝えたい情報を整理し、相手の立場に立ってよりよく構成することを考えさせる。		
本時の流れ	主な学習活動		ICT活用の工夫及び留意点等 (○：教員の活用，◎：児童生徒の活用)
	導入	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の復習をする。 2 本時の学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スライドを改善する時のポイントを整理して、実際に改善しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに作成したスライドを確認させる。
	展開	<ol style="list-style-type: none"> 3 より伝わりやすいスライドにするための工夫を考える。 【個人】→【ペア】 4 改善の工夫と理由について、全体に発表する。 5 自分のスライドをより伝わりやすいものへと改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善が必要なスライドを2枚準備し、それらを拡大提示し、生徒に考えさせ、工夫すべき点とその理由をノートに書かせる。 ・ 書いた内容をペアで確認させる。 ◎ スライドを実際に訂正させ、改善前と改善後のスライドを比較させながら発表させる。 ※ 受け手に分かりやすい発表になるよう意識させる。 ◎ プレゼンテーションソフトを活用させ、スライドを作成させる。 ※ 机間指導しながら個別に対応する。 ※ 伝わりやすい工夫を心掛けている生徒の作品を全体に紹介し、意識を高める。
	終末	<ol style="list-style-type: none"> 6 本時のまとめとして、作品の相互評価をする。【ペア】 7 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善した部分をお互いに紹介し合い、受け手にとってより分かりやすいものになっているかどうかを確認させる。
使用した教材・資料（コンテンツ）	<p>○名称・出典・内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自作教材（プレゼンテーションソフト：改善が必要な2枚のモデルのスライド） <p><内容>同じ内容を表しているが、字の大きさや色、アニメーションなどを全く付けていないものと、それらを付けたものである。</p>		
ICT活用の指導上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信の手段としてコンピュータによる発表資料の作成とデジタルテレビなどへの提示等を通して、効果的なICTを選んで情報の表現や処理の仕方を工夫する能力を身に付けさせる。 ・ 説明資料を作成する活動を通して、コンピュータを活用し、写真や図などを取り入れた分かりやすい資料づくりにより、多様な表現の工夫ができる能力を身に付けさせる。 		
備考	<p>○ICT活用に関して日頃から気を付けていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を提示する時は、単に文字だけでなく画像や映像を積極的に取り入れて提示する。 ・ デジタルカメラ等を用いて板書や生徒のノートの写真を保存して、活用している。 		

【本時の目標における情報教育（3観点8要素）の略記について】

「情報活用の[実践]力」→ [実践]，「情報の科学的な[理解]」→ [理解]，「情報社会に参画する[態度]」→ [態度]

「情報活用能力育成モデルカリキュラム」の対応番号→モ番号